

# 学校の魅力を最大限に引き出す教材開発

## 教職協働実践 I の授業づくりを通して

大丸奈緒美

Teaching material development that maximizes the attractiveness of the school:  
Through teaching staff collaboration practice I

DAIMARU Naomi  
(Received August 3, 2023)

キーワード：学校、協働、学びの連続性

### はじめに

令和4年度末、全国のみならず山口県においても、教員不足が深刻な問題となった。このことはこれまでの人事異動方針等の体制を大きく変更せざるを得ないほどの危機的なものであった。そして、今現在も学校現場での教員不足は逼迫した状況が続いている。教職員はこのような状況に翻弄されつつも、目の前にいる子どもたちの学びの保障に向け、日夜奮闘している。しかし、学校現場におけるこのような状況は、本質的な教育の質の低下にまでも及ぶのではないかと危惧されている。

このような現代の学校教育が抱える重大な問題を背景として、「令和の日本型教育」を実現していくためには、次世代の子どもたちの豊かな学びを引き出し支援する「学び続ける教師」の養成・採用・研修が急務であることは言うまでもない。

山口県教育委員会と国立大学法人山口大学教育学部との交流人事教員である筆者に課された使命は、これまでの自身の教職経験を最大限に生かし、学校という魅力ある教材を通して、教職をめざす学生の「主体的・対話的で深い学び」を実現しつつ、一人でも多くの学生が「学校の魅力」や「教師のやりがい」を体感することができる場を大学の授業において展開していくことであると考えた。

そこで、令和4年度教職協働実践 I（計5コマ実施）の授業実践を通して、地域とともにある小規模校の教育活動を教材とし、これから教職をめざす学生にとって、学校という場所、教師という職が、魅力的、かつ、やりがいのあるものであることを実感できる教材開発に取り組み、実践することとした。

## 1. 「教職協働実践 I」の授業づくり

### 1-1 授業者の強みを生かす

授業者のこれまでの学校現場や教育行政での経験、自らの大学内での職務等、教材開発に生かすことができる様々な強みを生かすことができる単元構成を行った。具体的には、

- 優れた教育活動を展開している小規模校との連携  
⇒ 周南市立須磨小学校の実践事例の活用
- 所管する教育委員会との連携  
⇒ 周南市教育委員会学校教育課への連携要請と情報提供
- 附属教育実践総合センターの事業との関連  
⇒ 研究視察バスツアー（R4.10.14実施）における体験事例の活用
- 現場での教職経験を踏まえた授業づくり  
⇒ 学校現場や教育行政での経験の中で獲得してきた授業スキル等の活用

などである。

### 1-2 教材の力を引き出す

授業づくりをする際に、科目の目的の一つである「体験学習とは何かについて、学生自身のいくつかの体験を通して、体験して学び、体験学習の理念や特徴を理解する」を踏まえた取組にしていくために、以下の点に留意し、授業づくりをすることとした。

- 限られた授業時間の中で、体験的な活動を取り入れていくための手がかりとして、ホームページを活用する。
- 実際に、対象校である小規模校を訪問した4年生に学習ボランティアとして授業に参加してもらい、4年生との協働活動の場を設定する。
- 対象校の校長をゲストティーチャーとして招聘し、学校現場の実情と学校の魅力、教師のやりがいを語っていただく場を設定する。

### 1-3 学生のニーズを踏まえる

活動自体が授業者からの一方的なものにならないよう学生のニーズを引き出すよう以下のような活動の工夫を行った。

- 対象校以外にも、自分の出身校のホームページを閲覧する時間を確保し、対象校との比較を通して、学校における教育活動等に興味関心がもてるようにする。
- 班活動において、Google Classroomを活用したり、KJ法を用いたりして、デジタルとアナログの手法、双方のよさを体感できるような協働活動を設定する。
- 4年生の学習ボランティアから、自分たちでは気付くことができない視点から助言してもらったり、4年生の体験談を聞いたりすることで、先輩から学ぶ場を意図的に設定する。

## 2. 「教職協働実践Ⅰ」の授業の実際

### 2-1 授業のねらい

テーマを「これからの学校教育のあり方について考えよう！」とし、本授業のねらいを以下の2点において実践することとした。

- 学校教育や学校を取り巻く環境や現状について関心をもつとともに、これからの学校教育のあり方について教師の視点に立って考えることができる。
- 資料作成の基礎を身に着けるとともに、作成した資料を他者にわかりやすく説明する基礎的技能を養う。

### 2-2 授業計画

教職協働実践Ⅰの授業15コマのうち、5コマを筆者が担当した。授業計画は以下のとおりである。

表1 「教職協働実践Ⅰ 5コマ分授業計画

| 回 | 日時    | 内容  |
|---|-------|---|
| 1 | 11/10 | ホームページの効果について<br>須磨小学校のホームページからわかることを話し合う。                          |
| 2 | 11/17 | ホームページに見るこれからの学校教育のあり方について<br>須磨小学校のホームページから「これからの学校教育のあり方」について考える。 |
| 3 | 11/24 | グループ発表の準備<br>グループごとに、発表資料を作成する。                                     |

|   |      |  |
|---|------|--|
| 4 | 12/1 | グループ発表1<br>一グループ6分間（質疑応答含め）で発表する。 6分×8グループ<br>※ゲストティーチャー 周南市立須磨小学校 校長 坂井竹俊 様 |
| 5 | 12/8 | 各グループの発表のふり返りと本授業のまとめ<br>各グループの発表をふり返り、本授業における学びをまとめる。                       |

## 2-3 授業の実際

計画に従って授業を実施し、随時修正しながら、毎回の授業をブラッシュアップしていった。  
以下が工夫した内容である。

### 2-3-1 授業ごとのリフレクションを次時の授業につなげること

毎回、授業後半に、リフレクションカードを用いて本時の活動をふり返り、授業で得た「新たな気付き」をGoogle スライドにまとめ、各授業の始めに全体で共有する時間を確保した。そうすることで、自分では気付かなかった「新たな気付き」から、「新たな視点」を得て、本時の活動に取り組むことができると考えた。

以下、抜粋して第1回と第3回、総括のリフレクションを示す（図1、図2）。

**これからの学校教育について考えよう！**  
**1/5 回リフレクション**

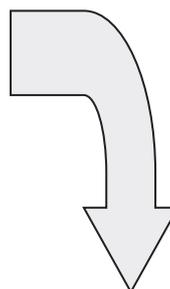
|   |   |
|---|---|
| <p><b>須磨小のHPについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の魅力を伝える工夫</li> <li>・子どもの活動が一目見てわかる</li> <li>・毎日情報発信していて、レベルが高い</li> <li>・もっと見たくなる工夫</li> <li>・毎日見たい！</li> <li>・一人一人の児童の頑張りがかかる</li> <li>・どこの学校にも負けないくらい魅力的</li> <li>・少人数の強み</li> <li>・グリーンカレー、食べてみたい</li> <li>・周南市をアピールしている</li> </ul> | <p><b>各学校のHPについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見比べることで学校の特色、個性がわかる</li> <li>・その学校独自の素敵な魅力</li> <li>・どんな学校かイメージできる</li> <li>・保護者、地域の方々が学校の様子がわかる</li> <li>・更新することに価値がある</li> <li>・地域に開いた学校づくりのための大切なツール</li> <li>・出している情報と出していない情報の区別</li> <li>・誰がHPを更新しているのか</li> </ul> |
|---|---|

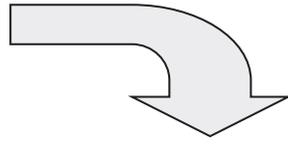
**これからの学び**

- ・HPから見える学校の課題、これからの教育について話し合っ深めていきたい
- ・HPを見ることで、これからの学校教育を考えるうえで大切なことに気付くことができた
- ・これからの学校教育について、さまざまな視点から考えることができたらいいな
- ・教育現場の変容に適応できる教員を目指したい

- ・4年生の先輩が気さくに話しかけてくださって雰囲気がよくなった

図1 第1回リフレクション





これからの学校教育について考えよう！ 第8回 3/5回リフレクション'ERSITY

話し合いの内容 これからの学びについて

- ・教師という職業の核になる部分、根本に迫る話をみんなや先輩とできて貴重な時間になった。
- ・KJ法でたくさん出た意見を改めてまとめることで「どんな学校になってほしいか」という問いに対しての考えがはっきりしてきた。
- ・学校体験で学んだこと、各学校のHPを見て感じたことなど、様々な視点から学校の在り方を考えることができた。
- ・学校現場の課題や改善点を考えると、先生の偉大さを楽しみ感じることができた。
- ・ICTを活用することも大切だが、紙媒体でやることもいいことなのだと気付いた。
- ・4つの視点に分けて、なぜそのような考えに至ったのかも考えてパワポに反映することができた。
- ・他のグループの意見も少し取り入れた。新しい、斬新な意見を知ることができた。柔軟な発想があっただけよかった。
- ・前回出した意見を文章化することで改めて学校の在り方について考えさせられた。意見を出すだけで終わるのではなく、最後にまとめることが大切だということ学んだ。
- ・4年生がおっしゃった、1年生の時の考えやアイデアは、私が4年生になったときに、またフレッシュなものとして貴重で新しいアイデアとなるのではないかと考えた。
- ・紙（KJ法）で意見を出す、デジタルでまとめるというステップを踏んだことで考えをしっかりとまとめることができた。
- ・一つ一つの課題が解決されればもっと教員の人気が増えるのになと思った。・教育現場がもっと働きやすい場になるといい。
- ・実現させたいことがたくさんあったので、それを一つでも実現できるように考えていきたい。

発表の準備について

- ・班で役割分担して、協力して発表の準備ができた。・役割分担をすることで主体的な活動にすることができた。
- ・改めて班のチーム力を実感できた。
- ・先輩がおっしゃっていたように自分で調べることも大事ということをこれからのチーム作業に生かしていきたい。
- ・自分もすぐにあきらめるのではなく、先輩のように自分で調べて自分の力にもするようになっていきたい。
- ・パワポを作る人、原稿を作る人に分かれて効率よく進めることができた。
- ・班で共有しながら進めることで自分には気づかないことに気付くことができた。
- ・Googleスライドには慣れていなかったけれど、工夫して、見やすいスライドを作ることができた。
- ・Googleのよい点と他のアプリのよい点を混ぜて利用することができた。
- ・準備時間が少なめなので大変だが、来週までには間に合わせたい。・4年生の助言をいただきながら作った。4年生の偉大さを感じた。
- ・迷っていた時に4年生の先輩が声をかけてくださり、方向性が決まった。さすが4年生はすごい。
- ・少しずつ完成していくのがうれしかった。まだまだ頑張りたい。

図2 第3回リフレクション

このように、第1回と第3回のリフレクションを比較しただけでも、学生の視点は回を追うごとに多様になり、また、他者との対話を通して、新たな視点を持ち、自身の学びを深めていったことが見て取れる。

最終回第5回の終了後には、全体のまとめをGoogle Classroomに掲載し、本授業の総括とした。（図3、図4）

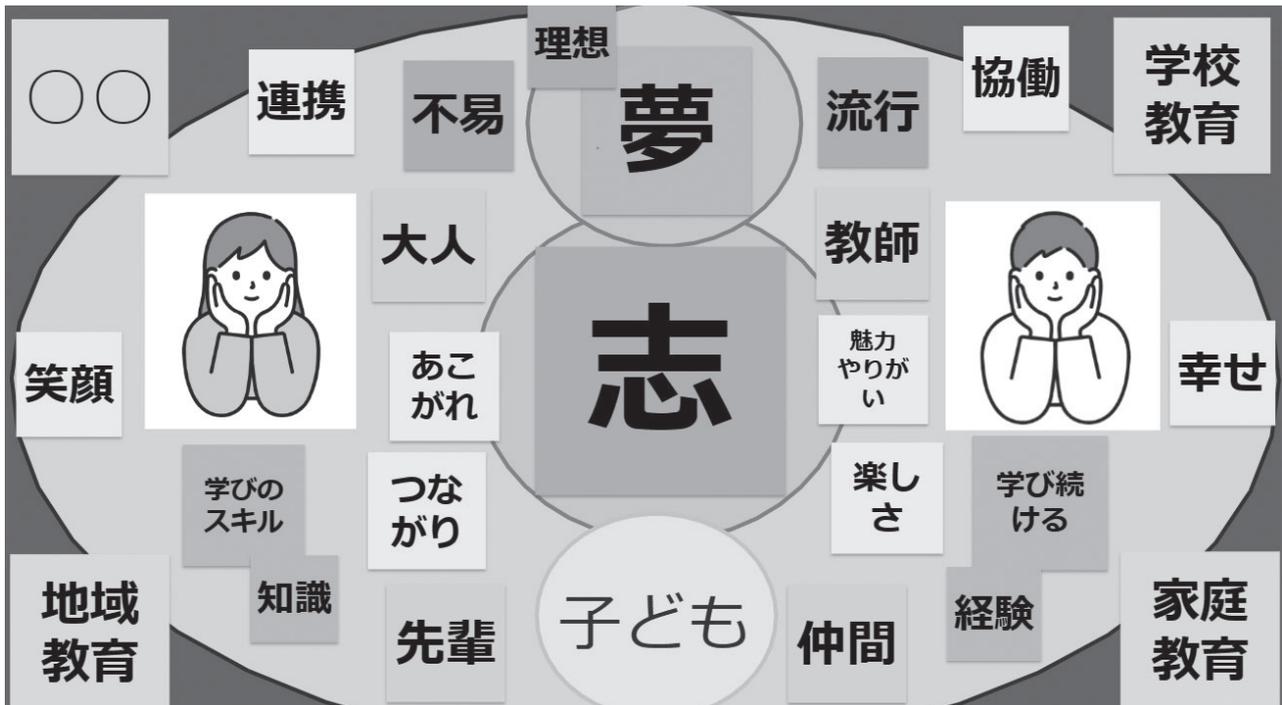


図3 総括リフレクション①

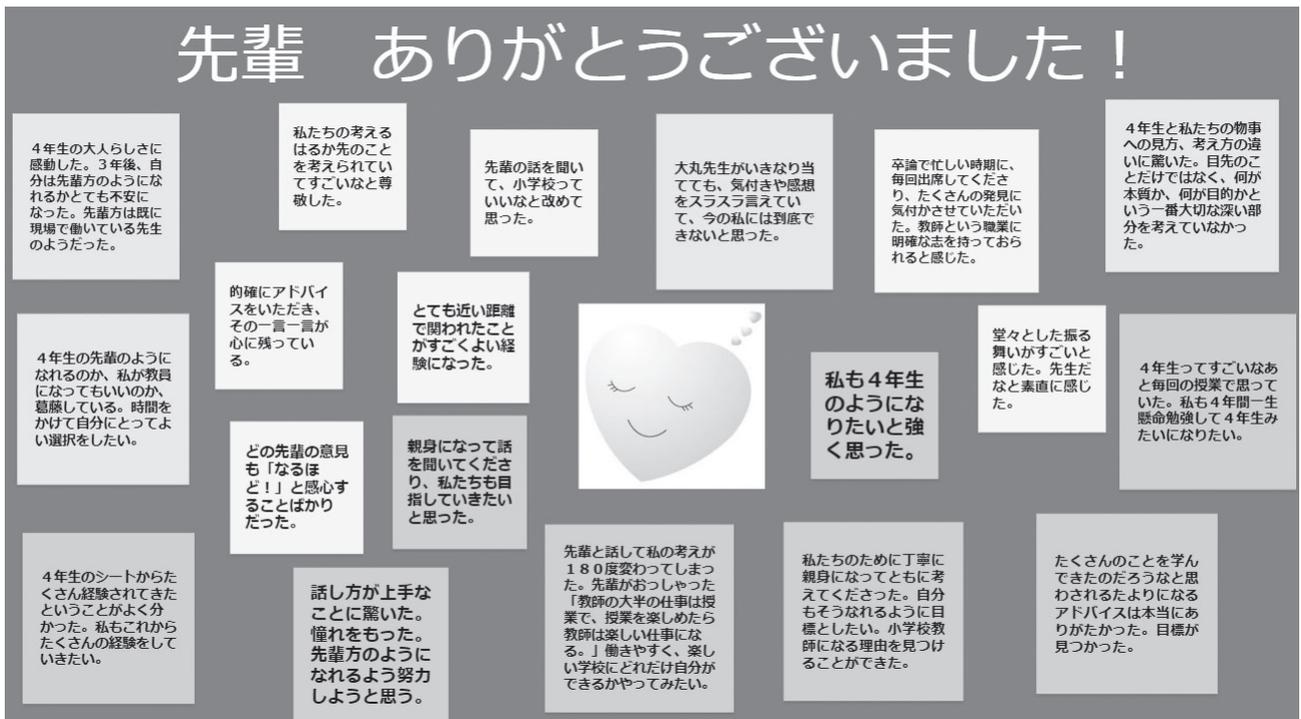


図4 総括リフレクション②

### 2-3-2 授業の中に様々なしかけをつくること

今後、教職をめざす学生にとって、児童と接する際に、意識面で大切にしてほしいことや、授業手法として活用できることなどを「授業のしかけ」として様々な場面で設定し、実施した。

- よりよい人間関係を構築していくための手立て
  - ⇒ 各回の授業始めには、後出しじゃんけん、セブンじゃんけん、一枚の写真等、アイスブレイキングからスタートした。
  - ⇒ 菊池省三氏の「ほめ言葉のシャワー」を最終回に実施し、班のメンバー一人一人に伝えたい言葉を伝え合う時間を設定した。
- 今の授業づくりに欠かすことのできない ICT の活用
  - ⇒ Google Classroom を活用し、Google スライドでの発表資料の作成（図5、6、7）、Google Jamboard での意見交流等、ICT の積極的な活用を促した。

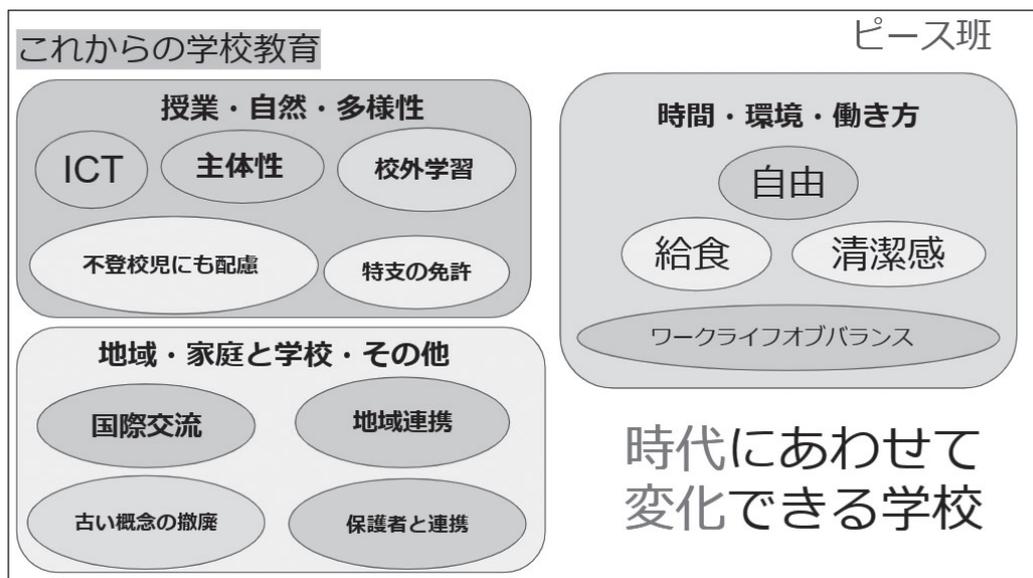


図5 発表スライド①

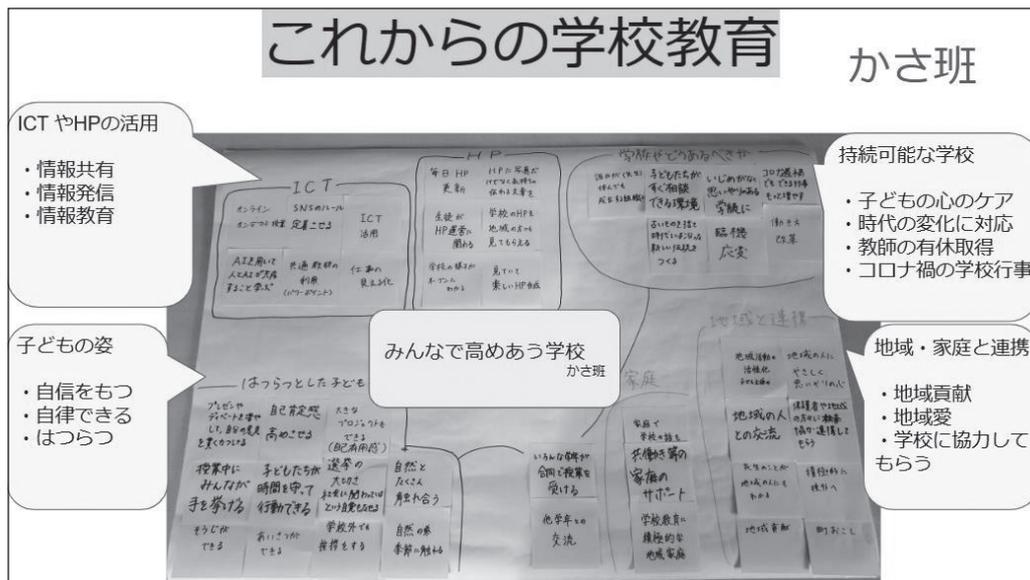


図6 発表スライド②



図7 発表スライド③

○ 学生へのメッセージを随時発信すること

⇒ Google Classroomのストリームを活用し、学生に大切にしてほしい視点を示したり、自ら意識することができるような投げかけをしたりした。以下、第4回に向けてのメッセージを示す。

来週はいよいよ発表会ですね。授業前に、発表順を決めたいと思いますので、各班の班長か代理の方、12時40分に教室にご参集ください。また、みなさんをお願いします。初回に「時間を大切に！」とお声かけをしてから意識していただいている方が増えてきていてうれしい限りです。  
来週は4年生6名に加え、ゲストティーチャーの方も呼びんでいますので、失礼がないよう5分前集合をお願いします。いつも5分前集合を意識されている方も多いと思いますが...「あいさつ」はばっちりですよ！「気持ちのいいあいさつ」が毎回できています。引き続き、この調子で！

### 2-3-3 最終回のリフレクションをこれからの授業につなげること

前述のように、最終回の学びをGoogle Classroomに掲載し、全体で共有することができるようにした。図3、図4に加え、以下のシートも掲載した。

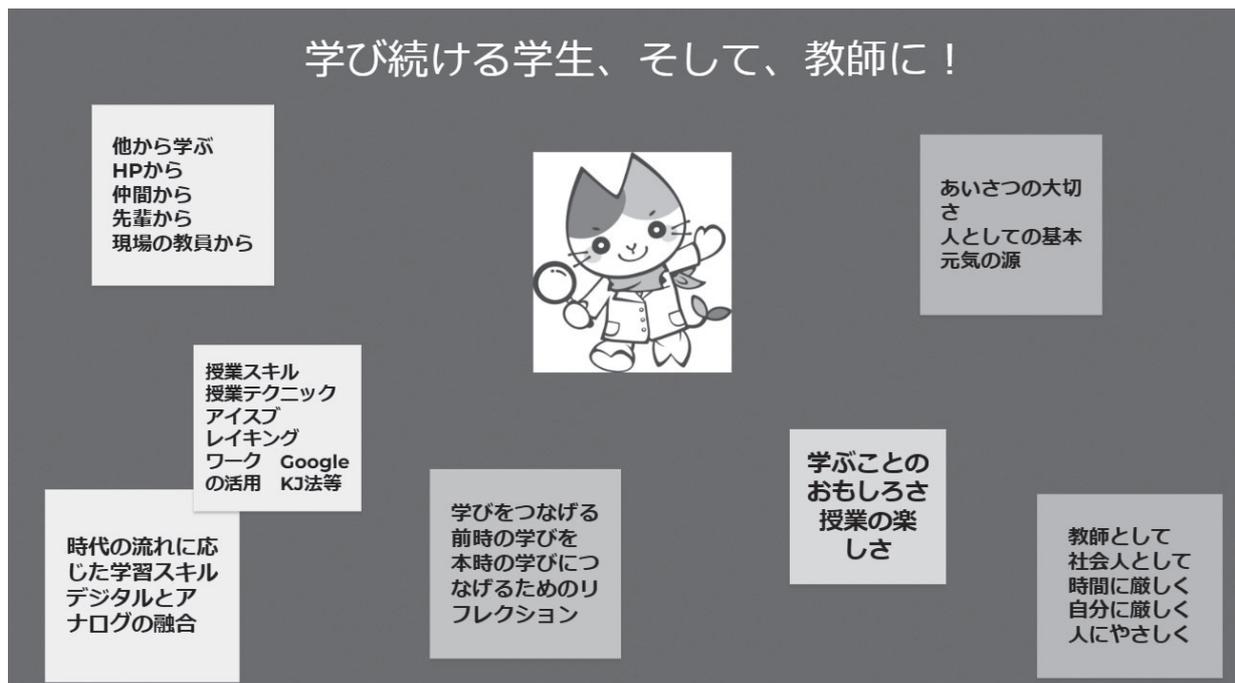


図8 総括リフレクション③

学生の中には、筆者が本授業を通して学生に問うてきた「もう一つの授業のねらい」に気付き、自分の言葉でまとめる者もいた。

大学での学びの礎となる1年生における学びをこれからの自身の学びにつなげていくことの大切さを自ら実感できた者の学びを全体で共有することで本授業のまとめとした。

### 3. 「教職協働実践Ⅰ」の成果と課題

#### 3-1 授業の成果

本授業における成果として、以下、学生のリフレクションの記述（抜粋）から項目ごとにまとめる。

#### 【小規模校・校長先生からの学び】

- ・須磨小学校の先生方の姿から教師としてのあるべき姿や情熱を学ぶことができた。
- ・須磨小の児童が地域の伝統芸能である太鼓に全員で取り組んでいる姿を見て、学校には地域の伝統を残す役割もあることを知った。
- ・校長先生のお話を聞き、自分が今何をすべきなのか気付くことができた。教員の魅力を発見することができた。
- ・地域を愛し、地域に愛される、そんな環境の中で子どもたちがのびのびと成長していけることのすばらしさをしみじみと感じた。
- ・須磨小学校の校長先生がおっしゃった「生まれ変わっても教員という職業につく」という言葉に感銘を受けた。自分もいつか同じことが言えるような教員になりたい。
- ・校長先生が「学ぶことの大切さ」「授業を考える時間が楽しい」「働き方が変わっても教育の根本は変わらない」といったお話ができるのは、これまで学校教育について真摯に考え続けてこられたからだと思った。私も自分が考える学校教育のあり方と向き合い続けようと思う。

### 【仲間からの学び】

- ・ 班のメンバーだけでなく、他の班の意見から、新たな視点を得ることができた。
- ・ 仲間の大切さを学んだ。自分一人くらい・・・と思う人が多ければ多いほど、班はバラバラになっていく。今回そのことを再認識できた。班として成長していくことができるよう頑張っていきたい。
- ・ 話し合いは難しい。理由を語ってその意見を深めることもなく、バラバラなものをただ大きくまとめるだけ。心を言葉で表現して、ぶつかって認め合う「本当の話し合い」にしていきたい。
- ・ グループ活動を通してより絆を深めることができた。欠席した際にできなかった活動（「ほめ言葉のシャワー」）があったが、授業後、班員が LINE でほめ言葉を送ってくれた。仲間がいることのすばらしさ、嬉しさを実感できた。
- ・ 他の人や他の班の人の考えを共有することで、自分にはなかった考えを知ることができ、また、自分にはなかった視点から学校教育のあり方を考えることができた。

### 【先輩からの学び】

- ・ 4年生の堂々とした振る舞いがすごいなと感じた。急に意見を求められても動じることがなかったり、説明が端的でわかりやすかったりと、すでに「先生」だなと率直に思った。
- ・ 今までは ICT は使わねばならないと思っていたが、先輩が「ICT は文房具と同じ。」とおっしゃったことから、必要な時に、使いたいように使っていくことが大切だということに気付かせてもらった。
- ・ 先輩のおっしゃった「先生の仕事の大半は授業。その授業を楽しめたら教師は楽しい仕事になる。」私の考えが 180 度変わった。この授業を楽しむということが教師としての一番の能力である。
- ・ グループワークのときに、活発に話し合いが進められるようにヒントをくださったたり、的確なアドバイスをくださったたり、親身になって考えてくださる姿に、私たちもめざしていきたいと思った。
- ・ 自分の感情をコントロールしつつ、子どもと向き合わなければならない。大変だけれど素敵な職業だと教えていただいた。
- ・ 3年後には私も先輩方のようにならなければという熱意が増した授業だった。
- ・ 4年生の先輩と直接かかわる機会はほとんどなく、とても近い距離で関わることがとてもよい経験をさせてもらっていると感じた。

### 【真の学び】

- ・ 5回の授業を通して、教師の目線から「これからの学校教育のあり方」について考えたことで、夢をもつことができた。この夢の実現に向けて、大学生活でたくさんのことについて学んでいきたい。
- ・ この授業を通して、今の学校教育の問題を踏まえた理想の学校教育を考えることができた。子どもにとって素敵だと思える学校をつくっていききたい。理想の学校教育を実現していくことが子どもたちの未来を預かる私たちの役目であると考えている。
- ・ 短い間だったが、この授業から、「これからの学校教育のあり方」だけでなく、子どもたちとふれあうテクニック、先生、社会人としての基本、学ぶことのおもしろさ・授業の楽しさを学ぶことができた。
- ・ 「これからの学校教育のあり方」についてだけでなく、「他から学ぶことの大切さ」「時代の流れに合わせるだけではなく、時代に応じた方法を考えることの大切さ」に気付くことができた。
- ・ もっと学校現場に行って現状の課題や問題点などを見つけ、学校の今を知ることが必要だと考えた。
- ・ 私たちは目先のことだけ考え、何が本質で、何が目的かといった一番大切な深い部分を考えられていなかったことに気が付いた。
- ・ 「知識を使いこなす学び」と「様々な人やものにふれる学び」が必要だと考えた。
- ・ 学び続けることを大切にしたい。「小学校の先生になる」という自分自身の夢と「学校と地域の協働を活性化させる」という教育の夢に近づくために、とにかくやってみる学びが必要だと考える。
- ・ 今の教育現場を自分の目で見て体感し、どのような課題があるのか、何が必要なのかを知った上で、どうやったら解決できるかを考えることが必要だということが分かった。
- ・ 教員は子どもの夢を志に変えていく仕事だということがすごく心に残った。

このように、学生のリフレクションの記述からは、実に多くの学びを得たことが見て取れる。全5コマという限られた授業ではあったが、授業者である筆者がめざしたねらいは概ね達成できたと考える。と同時に、「学校の魅力を最大限に引き出す教材開発」においても、一定の評価が得られるものであったと考える。

本授業実践を通して、「学校の魅力を最大限に引き出すための教材開発」には、以下のような要件が必要であると導き出すことができた。

- ① 教材として取り上げる学校の教育活動自体に魅力があること
- ② 魅力的な教材にどのように出合わせ、体感させるかという学習活動を工夫すること
- ③ 同学年や上学年といった他者との協働の場を意図的に設定すること
- ④ 学びの連続性や思考の連続性が可能な教材であること

### 3-2 今後の課題

5回の授業実践を通して、「学校の魅力を最大限に引き出す教材開発」の今後に向けた取組として、以下の課題が明らかになった。

- 持続可能な取組にすること

対象校の今年度の児童数は2名（R5.4.11現在）である。学校が存続する限り、教育活動を教材として活用していくことは可能ではある。しかし、学校は、これまでの教育活動を継続して全てを実施することは難しいと思われる。現状の中で、どのような教育活動を展開していくことができるのか、また、その活動を地域、保護者がどのように支えていくのかは、学校の状況に応じて年々変わってくるであろう。学校の教育活動を教材として扱う場合、そのような学校の実情に配慮した教材開発が必要になると考える。今後は、対象校以外の学校との交流も視野に入れつつ、学校にとっても、学生にとってもwin-winになる教材開発を展開していきたい。

- 学びの連続性を大切に計画を立てること

本授業の実施に当たっては、計画段階から学生の「学びのつながり」を大事にしたものにしたと考えていた。教員養成カリキュラムのスタート3科目である1年前期の教職概論、前期集中の教職キャリア形成Ⅰ（学校体験）、後期の教職キャリア形成Ⅱでの学びを基盤にしなが、新たな視点で「学校教育のあり方」を前向きに考える機会にしていくことができるよう活動を工夫しながら実施した。しかし、学習テーマが似かよってしまったために、学生によっては「同じことの繰り返し」といった感触をもつ者もいたのではないかと考える。そのことにより、意欲の向上につながらないものになったことも考えられる。学習テーマは授業において非常に重要なものであると考えるので、今後の実施に当たっては、再考、熟考しながら、学生にとってよりよい学びにつなげていくことができるような学習テーマを学生とともに考えていきたい。

## おわりに

令和5年度も、12月に教職協働実践Ⅰの授業5コマ担当する。前年度の成果と課題を踏まえ、本科目が、教員養成カリキュラムのスタート3科目との連動をさらに図り、学生一人一人が「学校が魅力的なものであること」、「教員がやりがいのある職であること」を体感できるよう、筆者のこれまでの教職経験をさらに生かしながら、「主体的・対話的で深い学びのある」授業にしていくことができるよう努めていきたい。

次代を担う子どもたちの教育をつかさどる教員という職に、一人でも多くの学生がポジティブにチャレンジしていこうとする意欲をもつこと、夢を志に高めていくことができるような学びの場を提供していくことが自身に課された職責だと考える。

## 謝辞

本実践研究に際し、令和4年度周南市立須磨小学校児童7名、同校校長（現柳井市立伊陸小学校校長）坂井竹俊様、令和4年度山口大学教育学部小学校総合選修4年生6名には、多大な支援と学びをいただきましたことに、心から感謝申し上げます。

## 参考文献

- 中央教育審議会：『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について  
～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（答申）」  
[https://www.mext.go.jp/content/20221219-mxt\\_kyoikujinzai01-1412985\\_00004-1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20221219-mxt_kyoikujinzai01-1412985_00004-1.pdf), 2022. 12. 19  
(2023. 5. 6 確認)
- 菊池省三 (2014)：「菊池省三流 奇跡の学級づくり」, 小学館.